

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

(2) 課題

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	目標値を上回っている。		
第2学年	目標値を大きく上回っている。	目標値を上回っている。 (第1学年時)	
第3学年	目標値をやや上回っている。	目標値を上回っている。 (第2学年時)	目標値を上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	
第2学年	目標値を上回っている。	目標値を大きく上回っている。	
第3学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	

3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	漢字の書き取りにやや課題がある。授業冒頭で実施している小テストを活用して定着を図る。	目的や意図に応じて文章をまとめるという問題に課題がある。授業の中で図表やポスターから読み取る学習活動を充実させる。	
第2学年	漢字の読み取りと文法にやや課題があるため、授業冒頭で実施している小テストを今後も活用していく。	自分の意見を文章にまとめるという問題の無解答率がやや高い。授業の中で、自分で考えて言葉にする活動を充実させる。	
第3学年	漢字の書き取りと文法に課題がある。授業冒頭で行っている小テストを今後も活用していく。	自分の考えを文章にまとめるという問題の無解答率が高い。そのため、授業の中で意見をまとめる活動を増やす。	

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・授業において、資料を活用し、その読み取りや話し合う活動などを行うことにより、思考や表現に関する力は向上したと考えられる。

(2) 課題

- ・知識及び技能に関する正答率から、基礎・基本の確実な定着を図る手立てが必要と考えられる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	目標値の水準となっている。		
第2学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。 (第1学年時)	
第3学年	目標値の水準となっている。	目標値の水準となっている。 (第2学年時)	目標値を上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1年	目標値の水準となっている。	目標値を上回っている。	データなし
2年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	データなし
3年	目標値を下回っている。	目標値を上回っている。	データなし

3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1年	タブレット端末のドリルパークなどを繰り返し取り組ませることにより、基本的な知識の定着を図る。	一部の単元で、自己の学習した内容をまとめ、発表する場面を設けることで、表現する能力の向上につなげる。	単元のまとめ時にワークシートなどを活用し、自己の学習の定着度をセルフチェックさせ、学習の調整につなげる。
2年	タブレット端末のドリルパークなどを繰り返し取り組ませることにより、基本的な知識の定着を図る。	単元末の話し合い活動などで、自己の考えを説明する機会を設けることで、表現する能力の向上につなげる。	単元のまとめ時にワークシートなどを活用し、自己の学習の定着度をセルフチェックさせ、学習の調整につなげる。
3年	タブレット端末のドリルパークなどを繰り返し取り組ませることにより、基本的な知識の定着を図る。	単元末の話し合い活動などで、自己の考えを説明する機会を設けることで、表現する能力の向上につなげる。	単元のまとめ時にワークシートなどを活用し、自己の学習の定着度をセルフチェックさせ、学習の調整につなげる。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・全ての学年において習熟度別少人数授業を継続しており、スタンダードコース（基礎～標準）とアドバンスコース（標準～発展）のどちらにおいても、少人数でのきめ細かい指導が生徒の理解を深めていると考えられる。
- ・どの学年も教科全体の正答率が区の目標値に達しており、基礎・基本の定着を図った指導の成果が出ていると考えられる。
- ・ドリルパークやワークを併用した家庭学習の推進により、学習内容の定着に一定の効果があったと考えられる。

(2) 課題

数学的な見方・考え方の利便性に気づき活用する意欲を高めることが必要である。また、授業中の個別指導や補習等を通して、理解に時間を要する生徒たちの支援が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	目標値を上回っている。		
第2学年	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。 (第1学年時)	
第3学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。 (第2学年時)	目標値を上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	目標値を上回っている。	目標値を大きく上回っている。	
第2学年	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	
第3学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	

3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	分数同士の乗除やグラフの読み取りにおいて課題がある。関連する単元の学習において、復習の機会を設ける。ドリルパーク等の副教材を活用して基本の定着を図る。	文字式が表すことの読み取りに課題がある。問題について生徒が予想しながら取り組める授業を展開し、関心をもって問題を考えられるようにする。	
第2学年	負の数の減法や一次方程式の計算において課題がある。関連する単元の学習において、復習の機会を設ける。ドリルパーク等の副教材を活用して基本の定着を図る。	図形の回転体や根拠の記述問題において課題がある。問題について生徒が予想しながら取り組める授業を展開し、関心をもって問題を考えられるようにする。	
第3学年	$A=B=C$ の連立方程式や1次関数の求式において課題がある。関連する単元の学習において、復習の機会を設ける。ドリルパーク等の副教材を活用して基本の定着を図る。	三角形の合同についての証明問題に課題がある。問題について生徒が予想しながら取り組める授業を展開し、関心をもって問題を考えられるようにする。	

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・全学年とも区の目標値に達しており、基礎・基本の定着を図った指導の成果が出ていると考えられる。
- ・副教材の活用など、教科の学習内容の定着に一定の効果があったと考えられる。

(2) 課題

- ・ICTの活用などを充実させることで、より興味関心を高められる授業を行う。
- ・基礎基本の定着と共に、発展的な学習内容に着手できるよう支援を行っていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	目標値を大きく上回っている。		
第2学年	目標値を大きく上回っている。	目標値を上回っている (第1学年時)	
第3学年	目標値を上回っている。	目標値を大きく上回っている。 (第2学年時)	目標値を上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストやノートの確認を行うことで、知識の定着を図る。実験や観察の技能と取得と定着ができるよう、積極的に理科室を活用していく。	実験や観察を行うとき、結果や考察を書かせ、判断や表現をできる機会を増やす。実験の予想などに、今までの結果や知識を生かせるような指導を行う。	実験や観察の機会を増やし、積極的に学習に臨む姿勢をつくる。ICTを活用し、興味を持たせる指導を行う。副教材を利用し、学習内容の定着を行う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストやノートの確認を行い、知識の定着を図っていく。また、実験や観察を積極的に行い、技能と取得と定着ができるよう、授業内容の検討を行っていく。	基本的な事項を確認しつつ、発展的な学習内容も行い、思考や判断を行う場面を増やす。レポート作成を行い、表現を工夫できる指導を行う。	実験や観察の機会を増やし、積極的に学習に臨む姿勢をつくる。ICTを活用し、興味を持たせる指導を行う。副教材を利用し、学習内容の定着を行う。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストやノートの確認を行い、知識の定着を図る。また、実験観察を積極的に行い、技能と取得と定着ができるよう、授業内容の検討を行っていく。	基本的な事項を確認しつつ、発展的な学習内容を積極的に取り入れ、思考や判断を行う場面を増やす。レポート作成を行い、表現を工夫できる指導を行う。	発展的な内容を取り入れることで、意欲的に考え、活動できるよう学習内容の充実を行っていく。副教材を利用することで、学習内容の定着を行う。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・既習表現を活用して、主体的にALTと英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことができた。
- ・生徒が知的好奇心をもち、さらに自らの学力を向上しようとする意欲を高めさせる工夫として、少人数授業を全ての学年で実施しており、発展的な学習にも挑戦させられるような授業の工夫を行うことができた。
- ・主体的に取り組むことが難しい生徒への支援の工夫として、生徒同士の学び合い・教え合いの活動を増やし、生徒の学習意欲の向上につながった。

(2) 課題

- ・既習文法や単語を活用して、主体的に英語を用いて表現しようとする態度を育てること。(第1学年)
- ・対話文を読み、内容や文構造・文法事項を理解する力を育てること。(第2学年)
- ・対話の流れに合った英文を相手に伝わるように、場面に応じて書く力を育てること。(第3学年)

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	目標値を大きく上回っている。		
第2学年	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。 (第1学年時)	
第3学年	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。 (第2学年時)	目標値を大きく上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析(観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を大きく上回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。

3 授業改善のポイント(観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞く、読む、を更に徹底して、話す、書く、にスムーズに繋げて、基礎基本の土台を完成させる。	英作文では、教科書基本本文の定着を図るとともに、自作文を少しでも発表できるようにする。	授業で興味や関心を持たせ、課題を示すことで、自主的に取り組む姿勢を助長する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
タブレットや副教材を活用し、単元ごとの確認を行う。	ALTを活用し、「書く」活動、スピーチ等の「話す」活動を充実させる。	副教材等で復習を中心とした課題を出すとともに、個に応じた取り組みを行い、主体的に学ぶ態度を養う。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
今後も単元ごとに確認テストを行い、定着を図る。副教材や自作のプリントを活用して、学力の向上を図る。	今後もテーマに沿った「書く」活動を行う。またALTを活用した授業の工夫として「話す」に重点をおいた活動を入れる。	生徒自身が振り返りを行い、自身の学習状況や課題を明確にし、主体的に学び続け、改善しようとする態度を養う。

令和7年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立田園調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

- (1) 成果・定期考査で、音楽用語や記号について出題した際に、正答率が上昇した。
- 合唱授業において、① 録音 ② 分析 ③ 改善 というサイクルの授業をすることによって、技能改善に効果があった。
- (2) 課題
- 楽語の理解度は高まったが、音符休符の長さやリズム読みが苦手な生徒が多いので、知識として身に付けることも、感覚的に拍数を感じ取ることもできるように工夫していきたい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年			
第2学年			
第3学年			

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年			
第2学年			
第3学年			

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音符の長さや強弱記号など、小学校では感覚的に捉えていたものを、読み方や意味を確認して知識として定着するよう指導していく。新出の音楽記号はその都度読み方と意味を確認し、楽譜を見て表現を考えられるようになることを3年間の目標としていく。	歌唱では変声期の生徒には特に注意を払い、パート練習時には個別に指導しながら無理のない範囲での発声を促していく。 歌唱の時に人数の少ない女子生徒が消極的な傾向があり、声量や発声の質を向上させる。	授業規律を確立させることが大切である。楽しく歌う雰囲気も大事だが、おしゃべりにつながらないようにコントロールしたい。忘れ物をしないことも徹底させたい。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習事項の音楽記号や楽典を、その都度復習し、基礎知識の定着を図る。鑑賞の授業においては、ICTを活用し、視覚的にも情報や知識を得やすい工夫をしていく。また、音楽史についても各時代の特徴を理解できるように授業展開を行うためにプリントの工夫をする。	表現の授業では、授業の最初に全体で表現の工夫を確認し、パート練習時に自分でその課題を達成できるような授業展開を行う。 曲想を分析し、どのように表現するかを具体的に考えさせながら合唱に取り組むたい。	授業規律を確立させることが大切である。楽しく歌う雰囲気も大事だが、おしゃべりにつながらないようにコントロールしたい。忘れ物をしないことも徹底させたい。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音楽記号などを生かして表現を工夫し、演奏をより良いものにするために、対話的に話し合いの時間を設けながら授業を展開する。様々な時代の音楽や、日本の伝統音楽、作曲家によって生み出された作品を守るためのルール（著作権法）、音楽療法など、幅広い知識を学ぶための教材を扱う。	表現の授業では、2年次よりも難易度の高い題材を扱うので、授業の最初に全体で表現の工夫を確認し、パート練習時に自分でその課題を達成できるような授業展開を可能な限り少ない授業時数で行わないと曲数をこなせなくなってしまう。	成績のために努力するのではなく、音楽の良さの本質を追求する態度を期待するという観点で評価していく。 より難易度の高い合唱曲に取り組み、仕上げることで自信をもたせたい。また、学習成果発表会や連合学芸会音楽の部での発表を目標にして取り組んでいく。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

- (1) 成果 関心を持って作品を鑑賞したり、見通しを持って表現したりすることができた。
- (2) 課題 アイデアスケッチや制作途中で行う相互鑑賞の対話を通して主題を生成し、課題を解決する力や、新たな価値観を提案できる力を表現することを通して高めていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年			
第2学年			
第3学年			

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年			
第2学年			
第3学年			

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 基本的な形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。 <技能> 材料や用具の特性を生かし、創造的に表している。材料や用具、表現方法の特性などから、見通しを持って表している。	<発想・構想> 機能と美しさなどの調和を考え、表現の構想を練っている。 <鑑賞> 作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めている。	主題を生み出し表現の構想を練り、主体的に美術の活動に取り組み、心豊かな生活を創造していく態度を養っている。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。 <技能> 材料や用具の特性を生かし、主題や意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しを持って表している。	<発想・構想> 社会との関わりや機能と美しさなどの調和を考え、表現の構想を練っている。 <鑑賞> 調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	形や色彩などが感情にもたらす効果を理解したり、意図に応じて自分の表現方法を追求したり、主題を生み出し表現の構想を練ったり、美意識を高めたりして、主体的に美術の活動に取り組み、心豊かな生活を創造していく態度を養っている。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果を理解している。 <技能> 材料や用具の特性を生かし、主題や意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しを持って表している。	<発想・構想> 社会との関わりや機能と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。 <鑑賞> 調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。 身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めている。	形や色彩などが感情にもたらす効果を理解したり、意図に応じて自分の表現方法を追求したり、主題を生み出し表現の構想を練ったり、美意識を高めたりして、主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、心豊かな生活を創造していく態度を養っている。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・単元目標を明確にし、カードやタブレットを活用しながら取り組みの成果や課題点を振り返る活動を行い、授業につながりをもたすことができた。
- ・話し合い活動のテーマを明確に示し、PDCAサイクルを活用することで言語活動が活発に行われていた。

(2) 課題

- ・単元目標を達成するために、生徒自身が主体的に動きを振り返ったり、自己やチームの課題を調べたりしながら、生徒自ら学びを深めていくような授業の工夫をする必要がある。
- ・単元によって生徒の主体的に取り組む意欲に差がある。苦手意識がある単元も工夫し、スモールステップで成功体験を積み、楽しさを実感することができる授業を展開する。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年			
第2学年			
第3学年			

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年			
第2学年			
第3学年			

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な知識・技能の定着を図るため、運動の楽しさを味わいながら、授業内で繰り返し技術の名称やポイントを確認しながら授業を展開する。	自己の動きを振り返る際に、振り返るポイントを提示することで振り返り方を学んでいく。また、自己の考えたことを他者に伝える機会を多く取り入れていく。	授業の見通しがもてるよう工夫し、自身が目指す姿を意識しながら授業に取り組むことを徹底させる。 仲間の助言を受け入れ、プレーに生かすことができるようにする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な知識・技能をさらに高め、既習事項との関連を図りながら授業を展開する。振り返りなどでも用語を用いて説明するなど、振り返りの仕方を工夫する。	課題を振り返るだけでなく、どのように工夫すべきなのかなどを考える機会を多く取り入れながら授業を展開する。	授業の見通しがもてるよう工夫し、自身が目指す姿を意識しながら授業に取り組む。 練習の目的を理解し、自分に必要な課題を見つけて積極的に取り組めるようにする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身に付けた知識や技能をゲーム内で活用したり、より具体的に分析したりする力のもととなるよう、授業の展開を工夫する。	自ら学習を調整するために、チームなどで練習方法を工夫したり、改善したりする時間を多く取り入れながら、考えを深める力を養う。	授業の見通しがもてるよう工夫し、自身が目指す姿を意識しながら授業に取り組む。 練習の目的を理解し、自分に必要な課題を見つけて積極的に取り組めるようにする。

令和7年度 技術家庭科 授業改善推進プラン

大田区立田園調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

- (1) 成果・学習内容に対する生徒の興味・関心・意欲は高い。作品を完成させることにより充実感を味わわせ、それが次の課題に取り組む意欲を高めていることにつながっていると考えられる。
- (2) 課題・設定した時間内に作品を完成させることができない生徒について、昨年度より減少した。
・自ら問題解決することが苦手な生徒が比較的多い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年			
第2学年			
第3学年			

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年			
第2学年			
第3学年			

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
工具や教材に触れ、体験することで知識や技能の向上をはかる。 日常生活と関連することがらについて目を向けさせる。 実習では安全に留意し、作品を完成させることに重点をおく。	作品の見本や写真、動画などを確認しながら、視覚的にとらえられるようなものづくりを実践していく。 発表や発言の機会を設定し、コミュニケーション能力の育成を行う。	毎時間の終末に、学習カードを利用して、作品の評価や全体的な自己評価を行い、次時のものづくりを実践していく。学習内容を実生活にあてはめて考えさせ、主体的・意欲的に学習しようとする態度を育成する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
工具や教材に触れ、体験することで知識や技能の向上をはかる。 日常生活と関連することがらについて目を向けさせる。 実習では安全に留意し、作品を完成させることに重点をおく。	作品の見本や写真、動画などを確認しながら、視覚的にとらえられるようなものづくりを実践していく。 発表や発言の機会を設定し、コミュニケーション能力の育成を行う。	毎時間の終末に、学習カードを利用して、作品の評価や全体的な自己評価を行い、次時のものづくりを実践していく。学習内容を実生活にあてはめて考えさせ、主体的・意欲的に学習しようとする態度を育成する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
工具や教材に触れ、体験することで知識や技能の向上をはかる。 日常生活と関連することがらについて目を向けさせる。 実習では安全に留意し、作品を完成させることに重点をおく。	作品の見本や写真、動画などを確認しながら、視覚的にとらえられるようなものづくりを実践していく。 発表や発言の機会を設定し、コミュニケーション能力の育成を行う。	毎時間の終末に、学習カードを利用して、作品の評価や全体的な自己評価を行い、次時のものづくりを実践していく。学習内容を実生活にあてはめて考えさせ、主体的・意欲的に学習しようとする態度を育成する。